

発行所

公益社団法人  
全日本仏教婦人連盟  
〒151-0051 東京都渋谷区  
千駄ヶ谷4-5-10-205  
TEL 03-5772-0677  
FAX 03-6434-0184  
URL http://jbwf.jp

# 沙羅の樹

Saranoki

No. 8

2017年秋号

10月1日発行



## 国連の「持続可能な開発」と仏婦の支援活動



「持続可能な開発」(Sustainable Development) という言葉が地球レベルで使われるようになってから30年近くになります。しかし、その概念はまだまだ一般に知られていないのが現状です。「持続可能な開発」は短期的な利益ではなく、将来の世代が得る利益を考え、環境を利用していこうとの考えです。1987年にノルウェーの女性大統領・ブルントラント氏が委員長を務めた「国連環境と開発に関する委員会」が出した報告書で初めて強調され、以来国連の環境保護の基本的な考え方の一つになっています。

関係してきます。貧しい人々は先のことを考えずに木を切り、砂漠化が進みます。先ず貧困と戦わなくては、環境が貧困を因とした応報を受けます。環境、貧困、教育の問題を個別に考えるのではなく、「持続可

能な開発」という広い視野に立って総合的に解決していく必要があるのです。この度、比叡山宗教サミットの「貧困の追放と教育の普及」をテーマとするフォーラムに出席しました。紅一

点のパネリスト、エラ・ガンジー氏(南アフリカ・ガ



ンジー氏(南アフリカ・ガ

ンジー氏(南アフリカ・ガ

環境問題と貧困は密接に

環境問題と貧困は密接に

環境問題と貧困は密接に

環境問題と貧困は密接に

## 私たちの活動報告

各事業にご賛助及び  
ご協力をいただき、  
ありがとうございます。

- ▼賛助金にご協力の方々  
妙清寺 圓珠院 シーエスジャパン(株)
- ▼社会福祉基金にご協力の方々  
三千院門跡 長専院 善養寺  
臨済宗妙心寺派宗務所 妙安寺  
福岡県仏教連合婦人会 海老塚りり子  
小峰みな子 木南鈴子 笠井淑子  
安井豊子 林房江 湯地和夫 鈴木恵子  
中村京子 川名庸子 岩脇孝子  
阿部孝子 長尾節子 安部勢津子  
来馬和子 平和子

- ▼一本のタオル運動にご協力の方々  
望月みゆき
- ▼花の種運動にご協力の方々  
小峰立丸 小峰喜和子 阿部孝子
- ▼里親運動にご協力の方々  
丸山弘子
- ▼あおぞら奨学基金にご協力の方々  
日野西光尊 佐々木公子 佐々木範枝  
望月みゆき 望月裕子
- ▼災害救援にご協力の方々  
日野西光尊 塩入広子
- ▼写経運動にご協力の方々

- 【宝光院扱い】  
大橋百合子 金澤昌子 田中美恵子  
上野雪子 柘澤元子 猪瀬三枝子  
大橋聡衣 黒川秀子 中澤恵子  
谷中好江 浜野福貴子 金井佐久子  
押山ゆりか
- 【事務局扱い】  
横山俊子 木村匡成 木村美恵  
末廣久美 山口美和 佐々木公子  
上原桂子 六條照瑞 木南鈴子  
塩入広子 東伏見具子 林房江  
鈴木トヨ子 小峰みな子 上原憲太郎  
村上和之 善村武仁 小林牧子  
岩脇孝子 長尾節子 平和子  
海老名初江

- ▼誌代にご協力の方々  
大橋百合子 花岡眞理子 海老塚りり子  
木南鈴子 河原時子 末廣久美
- ▼ご芳志を頂きました方々  
篠田節子 平林宣子

7月20日～9月15日(順不同・敬称略)

- 7月  
6日 (公財) 全日本仏教会第2回社会・人権審議会(明照会館)  
19日 全日本仏教青年会理事長来局  
20日 「全佛婦」125号発行  
26日 第14回理事会(天王寺)・懇親会(上野・翠鳳)  
28日 第11回東日本被災地訪問(石巻)
- 8月  
3・4日 比叡山宗教サミット30周年記念  
「世界宗教者平和の祈りの集い」  
(国立京都国際会館・比叡山延暦寺・将軍塚青龍殿)  
14日 第52回戦争犠牲者慰霊並びに平和祈願式典  
(九段・千鳥ヶ淵戦没者墓苑)
- 9月  
4日 (公財) 国際仏教興隆協会印度山日本寺竺主晋山祝賀会  
(ホテルグランヴィア京都)  
全日本仏教青年会倉島隆行理事長就任祝賀会  
(ザ・プリンスパークタワー東京)  
13日 常務理事会・第3回役員会・第107回文化講座(天王寺)  
16日 善光寺大本願仏教文化センター創立一周年記念「花結び展」  
(長野・北野カルチュラルセンター)

今後の文化講座

場所 谷中天王寺

どなたでも参加できます!

- 第108回 日時：10月18日(水)  
内容：「お元気ですか？」上映会
- 第109回 日時：11月17日(金)  
内容：「日常生活の中の瞑想」
- 第110回 日時：1月17日(水)  
内容：青年僧と語らうー浄土真宗東本願寺派ー

お知らせ 第64回 全日本仏教婦人連盟大会

【日時】 11月6日(月)11時～  
【会場】 東京プリンスホテル2階  
「マグノリアホール」

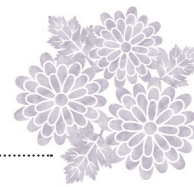
当連盟では毎年新年修正会を開催しておりますが  
今後は会員相互の懇親の場にさせて頂きますのでご了承ください。

わらび座公演

ミュージカル  
ブツダ

日時：10月20日(金)  
会場：大田区民ホール・アプリコ

日時：11月25日(土)  
会場：調布市 グリーンホール



自然災害が起きた時の緊急援助は別として、平時の寄付は持続可能なターゲットが望ましいです。すでに行われている教育支援は、教育を受けた子供たちが自立して、生活の糧を自ら得ることができるようになる典型的な持続可能なモデルです。対象が大人の場合は、手に職を持つて自ら収入を得ることができるとは職業訓練施設などへの寄付が効果的です。何れにせよ、一回の寄付は種を蒔くようなもので、それから支援された人々が自助努力して花を咲かせることができるように見守ることが肝要と言えましょう。仏様には一人も漏らさず救い上げるために手に水かき（まんもうそう）があります。仏教は「地球上の誰一人として取り残さない」「Leave no one behind」という国連のスローガンを悠久の昔から体現してきました。

丸山弘子

比叡山宗教サミット三十周年記念  
「世界宗教者平和の祈りの集い」  
に参加して

八月三日・四日と「比叡山宗教サミット三十周年記念世界宗教者平和の祈りの集い」が、国立京都国際会館、比叡山延暦寺、將軍塚青龍殿において執り行われました。世界十八か国総勢二千人の参加者による平和の祈りが捧げられ、参加者一同から宗教者の連帯の絆を一層強め「忘己利他」の精神で平和のために献身することを誓う比叡山メッセージ二〇一七が発信されました。

三日は、国立京都国際会館において、開会式典に始まり、元国連事務次長明石康氏による「分裂と憎悪をどうしたら乗り越えられるか」並びに世界宗教者平和会議国際事務総長ウィリアム・ベンドレイ氏による「暴力的過激主義に宗教者はどう立ち向かうか」と題した基調講演、シンポジウムが執り行われ、夕刻には、全日仏婦の東伏見会長の御自坊、青蓮院門跡の青龍殿において「不滅の法灯」の分灯がとる中、鎮魂の祈りが捧げられました。

四日の比叡山延暦寺一隅会館前広場での世界平和の祈りの式典では「平和の鐘」をつく音の合図に世界平和の祈りが捧げられ、参加者一同から「比叡山メッセージ二〇一七」が発信されました。

それは真に世界の現状を見極めた内容の濃いメッセージで、結びに「平和を考えると一番重要なのは、他者の存在を受け容れ、弱者に対する配慮を欠かさ

ないことである。三十年前我々は『宗教者は常に弱者の側に立つことを心がけねばならない』と、世界に宣言した。しかし、世界に宣言した。しかし、その責務を十分に果たしてきたとはいえない。ここを率直に告白せざるを得ない。そこで、改めてここに決意を新たにし、宗教者の連帯の絆を一層強め、「忘己利他」の精神で平和のために献身することを誓うものである。憎悪と排除からは争いしか生

まれない。忍耐強い対話と他者の存在を受け容れる努力こそ、平和への近道であることを強く訴える。そして、我々の切なる願いが神仏に聞き届けられるように祈り、行動していくことをここに宣言する。」とあるように、今までの活動を深く改悔し、世界平和の精神を新たに宣言されました。連盟より末廣理事長他二名で参加を致しました。

本多端子

子どもの夏まつり  
2017  
in 石巻

団体会員 無憂樹の会  
加藤妙子

私は、7月28日、無憂樹の会では今年で6回目の訪問になる東日本大震災支援のボランティアに、初めて参加いたしました。現地に着く前に海岸沿いの供養塔に立ち寄り参拝し、整備された景色と骨組みだけが残されていたというお寺の本堂も完成近い様子にほっとした思いを感じました。

石巻市にある万石浦小学校に着き、毎年参加される皆さんや曹洞宗青年会のお坊さんたちと一緒に、通う子どもたち百名とのコミュニケーションの場を設けました。私たちは、子供たちが絵を描いたり、シールを貼ったりした紙コップを二重にしてお茶を淹れ、皆でお菓子を頂き、描いたコップはみな喜んでお土産



に持ち帰りました。去年は、団扇作り、絵を描いて踊ったとの事。そして、無憂樹の会員が、静岡の美味しいお茶を急須に入れて茶托に湯呑を載せて出してあげたいと願い、毎年皆で持参しているとの事でこちらではこのようにお茶を頂く事が少なく、皆さん感激して下さいました。

また、「去年、団扇にお化けの絵をいっぱい書いたのを見せられた時は、私は、

言葉が出てこなかったです。今年は、みんな明るい顔をしていたね。話しかけてくれたよね。色々聞いても来たよ。毎年来るから安心したのかな。」私はこのような会話を帰りの電車の中で聞きました。

とんじやくなく紙コップに絵を描く子供たちを見守りながら会話をしていた私は、礼儀正しい子供たちだと感心させられるばかりでしたが、やはり以前は、全体的に荒れていたのだと知りました。

落ち着きを取り戻してきめたのか、前を向いて歩き始めたのか、この子供たちは乗り越えて逞しくなってきたのかな？毎年足を運んだ会員の誰もが皆、この先も見守り成長を気にしていく事でしょう。

一回だけの参加でしたが、大きい多くの宿題を出されたようです。私の出来た事はほんのわずか、それでもここで出会えた皆様にご苦勞様、ありがとうございます。感謝の言葉が一番でした。

第52回  
戦争犠牲者慰霊並びに  
平和祈願式典  
日比野郁皓

8月14日、国立千鳥ヶ淵戦没者墓苑において、新日本宗教青年連盟の主催により第52回戦争犠牲者慰霊並びに平和祈願式典が営まれました。新日本宗教連盟に加盟している団体の会員や各界からの来賓及び一般の2千人以上の人々が参列し、戦争犠牲者の霊に祈りを捧げ、このようなことを二度と起こさない様、平和の実現を誓いました。全日本婦人連盟は来賓として末廣理事長及び2人の随員が列席しました。

式典の初めに主催者の岩渕新宗連青年会長が「命を尊ぶ平和な世界の実現」への言葉を述べ、保積新



宗連理事長は、「お互いの違いを認め尊重し手を携えて平和を実現したい」と挨拶しました。続いて50人以上の若者たちによる千羽鶴の奉納と、献灯が行われ、会場は静かな祈りの雰囲気に包まれました。最後に1人の青年による「平和へのメッセージ」が発表され、参列者全員で黙祷を捧げました。

戦後72年を迎え、戦争を知らない世代がほとんどとなってしまった現在、戦争の恐ろしさを再確認し、平和を築いていくことの大切さを訴えた戦争犠牲者慰霊並びに平和祈願式典でした。

